

令和2年度第3回帯広市交通安全市民会議 議事要旨

1 日時 令和2年10月9日(金) 14:00～15:29

2 会場 帯広市役所10階第5A会議室

3 出欠状況

委員 猪子 莊太郎、太田 義彦、奥野 一男、佐竹 信也、高島 寿、武田 光史、塚田 茂男、塚本 俊二、寺山 康浩、平舘 善明、船迫 郷子、前田 敏、與坂 樹代二、米森 洋子
(以上14名、敬称略)

※欠席委員 浅野 慎哉、村岡 克己(以上2名、敬称略)

事務局 危機対策室長 石田 智之、危機対策課長 岡田 剛、危機対策課長補佐 佐藤 真樹、危機対策課主任 上野 智子、危機対策課主任補 千田 真実

(以上5名)

4 会議次第

(1) 開会

(2) 新任委員紹介

(3) 議事

①令和元年度帯広市交通安全実施計画実績報告について

②第11次帯広市交通安全計画への答申について

③今後のスケジュールについて

(4) 閉会

5 議事

(1) 令和元年度帯広市交通安全実施計画実績報告について

事務局より説明。

○ 今年度の取り組みについて、新型コロナウイルスの感染拡大を受けいくつかの事業は中止や縮小となっていると思うが、令和元年度の計画に影響はあったのか。

○ 令和元年度計画の事業の実施に影響はなかった。

(2) 第11次帯広市交通安全計画への答申について

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より一括して説明。

- 先日の市民会議の中で洗い出された、「50 歳代の減少率の低さ」だとか「サポカーの普及」について、今後の方向性に関する考え方が答申書案に盛り込まれている。
第 11 次帯広市交通安全計画の中に、時代に合った考え方が含まれていくような答申内容となっていると思う。
- 「適確」という標記は「的確」なのではないだろうか。
- 単語の意味を整理し、必要な場合は修正させていただく。
- 運転者の不注意による交通事故が多いことが、全体の課題となっている。
「安全運転義務違反」に該当する違反について詳しく記載した方が良いのではないだろうか。具体的な内容を記載した方が、実際の取り組みにつなげやすくなると思う。
- 「安全運転義務違反」について、具体的な違反内容を加筆させていただく。
- 50 歳代による交通事故発生件数の減少率が低いところについては、「50 歳代による交通事故発生件数の全体に占める割合が多く、かつ減少率も低い」といった表現だと、より伝わりやすいと思う。
- 老人クラブでは交通安全に関する研修会などを行っているが、老人クラブに所属していない高齢者にはそうした教育機会がないため、どのように対策していくか悩ましいところである。
帯広市などが主催する高齢者ドライビング体験会は毎年 3 回開催され、合計の参加可能人数は 100 人程度である。参加できる人数が少ないのに、参加者は毎回同じような顔ぶれとなっている。開催案内はどのように行っているのか。これまで参加したことのない高齢者を優先に受け付けてほしい。
- 高齢者ドライビング体験会の案内は、老人クラブの会員の方にハガキを送付しているほか、広報おびひろに開催情報を掲載し、広く参加を呼びかけているが、実態としてはリピーターが多くなっている。事務局としても、高齢者への教育機会の拡大という意味で、新規受講者を増やしていくことは重要であると考えている。ご意見を参考とさせていただく。
- ただいまのご意見を踏まえると、高齢者に対する教育の記述について「機会が必要」から「機会の充実が必要」としてはどうだろうか。
- 高齢者ドライバーに注目した記述が多いが、交通事故における高齢者の被害者も多いので、その旨加筆した方が良いと思う。
- 50 歳代の交通事故発生件数は高止まりしているということが伝わる記述としても良いと思う。
- 交通安全教育や啓発活動の推進における「事業所を通じた教育」というところについて、事業所の中には安全運転管理者を選任する義務がないところがある。そうした事業所に勤めている方に対し、果たして交通安全に関する教育や啓発を受ける機会があるのかと、日頃考えているところである。

社用車を持たず安全管理者を置いていないような事業所に対し、交通安全の教育や啓発を行っていきける仕組みがあればありがたいと思う。

このことについて答申書の中に盛り込むか、今後の年次計画に記載するかどうかは事務局に任せる。

- 交通環境の整備の方向性について、表現としてはこのとおりで良い。
市民が実際に道路を通行している中で、道路環境に関する気づきを得るが、それをどこに伝えて良いのかわかりづらいつ感じている。
- 道路環境に関する部署は市役所やその他関係機関など多岐にわたる。市民の意見を一つに集約することは簡単ではなく、すぐに実現できることではないが、ご意見を参考とさせていただく。
- 帯広市が発行している広報おびひろに掲載されている「市長への手紙」を出したことがあるが、すぐに返答があった。広報おびひろは市内に広く配布されているし、このような媒体を利用することも一つの手段であると思う。
- 帯広市内に、国道・道道・市道があり、道路管理者は場所によって異なるが、市民の中には市内の道路を全て市道だと思っている方もいる。道路環境に関する市民意見を集約して国や道へ振り分けてもらえるとうありがたいと思う。
- 市民意見を集約する場ができて、それを市民に周知することができれば便利であるが、市ができることや予算が関わることもあるから、書きぶりには注意した方が良い。
- 「国、道、市を市が集約します」というのはなかなか実現が難しいと思う。できるところから検討していけたら良いのではないだろうか。もしも記載するのであれば、「市道の範囲において」など、市が対応可能である範囲での書きぶりにとどめておいた方が良いと思う。
- はっきりと言い切るような表現ではない方が良い。
- 記載の可否については事務局に一任する。
- 交通安全に係る教育について、運転免許を取得している市民は交通ルールについて教習所で学んでいるが、運転免許を持っていない人に対する教育をどうしていくかという、教育の機会にも触れた視点が欲しい。
- 第10次帯広市交通安全計画では交通事故発生件数・死者数・負傷者数は全て最小となっていることは、これまで地道に進めてきた取り組みの成果であると思う。
今までの課題だけではなく、積み上げてきた成果について触れても良いのではないだろうか。「成果が得られているなかであっても、痛ましい事故は一つでも無くしていきたい」というような趣旨の記載があつて良いと考える。

- 良い成果が得られているということは書いて良いと思うが、それでも交通事故は起こってはいけないものであることから、「交通事故発生件数は減ってはいるものの、目指すべきところは交通事故の発生をゼロにする」という表現とした方が良いと思う。
- 依然として乗車する際にシートベルトを着用していない市民がいる。今後も着用の徹底を呼び掛けていく必要がある。
- シートベルトを着用していなかったことで交通死亡事故につながってしまったというケースは、過去5年間でも発生している。今後もシートベルト着用の徹底に向けた啓発に取り組んでいく。
- 交通事故が減っている要因は、市のほか各関係団体等の取り組みや、法改正やドライブレコーダーの普及など、様々なことが考えられる。成果の考え方は現状と課題のところで網羅されているように思える。
- 事実として交通事故が減っているのだから、成果が得られていることを書いても問題はないと思う。
- これまでの計画と、それに基づき取り組んできた事業に対する評価として記載することは良いと思う。他の委員よりご意見があったように「目指すところは交通事故の発生をゼロにすることである」という意識を市民会議としてしっかり持っていることがわかるような答申書の内容となっていれば良い。
- 「取り組みの成果が得られているが、今後も交通事故発生ゼロを目指していく」という趣旨で記載したいと思う。記載箇所や体裁は事務局と調整する。
- 降雪時に路上駐車している車が、除雪作業の邪魔となって迷惑している。何とか対処できないものだろうか。
- 除雪作業については、広報おびひろなどにより「路上駐車をしない」、「道路にものを置かない」などを呼びかけているところ。市民の皆様にもご協力をお願いしたい。

以上